

花粉症を再現！OHIOチェインバー

スギ花粉症が終わったと安心したのもつかの間、カモガヤの花粉に反応する人は今ごろがピークかもしれません。その花粉症を研究するためのOHIO・チェインバーは、花粉が最も飛散する時と同じくらいの症状を出すことができる「花粉暴露室」です。決まった量の花粉を吹き込むことができ、その部屋の中の患者さんは鼻水が出てきたら鼻をかみ、使用したティッシュペーパーの重量を測定することで鼻汁量も測定できます。花粉症の症状や重症度を検査するための部屋です。また、薬の効果や作用時間などもみることができます。部屋に入って薬をのんだらどのくらい症状が改善されるのか、前もって薬をのんで部屋に入ったら症状が出ないのか、などがわかります。花粉症では、こういう基本的なことがこれまで全く研究されていませんでした。このような花粉暴露室は世界11ヶ国にあり、そのうち日本にはOHIO・チェインバーを含めて4ヶ所にあります。協力した4名の医学者の名前の頭文字をとってOHIOと名付けられました(Oのひとは日本人の大久保のO)。



排便時の出血は必ずしも痔ではない……

排便時に出血していると「痔なのかな」と疑うケースが多いと思いますが、本当に痔なのか、腸に問題があるのか鑑別診断する必要があります。年齢が女性で40歳以上、男性で50歳以上であれば、大腸が直腸にがんやポリープができる可能性が高くなります。過去に大腸の検査を受けたかどうかを聞いて、検査をしていなければ大腸内視鏡検査をお勧めします。女性でがんが増えてくる年齢は平均的に50歳以上ですが、いま女性のがんで亡くなる病気の第1位が大腸がんです。最近の統計データを見ると45歳以上(48~49歳)で増えてきます。そのため40歳以上を目安に大腸内視鏡検査をお勧めします。ただし、両親のどちらかが大腸がんを患ったことがある場合は、男性にも早い段階から検査をお勧めします。20~30代では、全員に大腸内視鏡検査をお勧めする必要はありませんが、潰瘍性大腸炎やクローン病などの大腸炎も考えられます。出血に加えて粘液が出たり、常に下痢気味という状態であれば、大腸の炎症があると考えられますので、場合によっては検査をした方が良いでしょう。なお、肛門ポリープはがんにならないので心配いらないそうです。

ドライマウスとは？

ドライマウスは、だ液の分泌量の減少により口の中が乾燥する病気です。「口の中のネバネバ感」「口臭」「味の違和感」などの症状が生じます。日本では約800万人の人がドライマウスに悩まされているといわれています。ドライマウスは女性に多くみられ、ストレス、口の周りの筋肉の低下、薬の副作用などが原因となります。緊張したときの口の渇きは一過性ですが、ストレスを受け続けているとリラックスする時間が減り、だ液の分泌量は少なくなります。柔らかいものを好んで食べることや、加齢により口の周りの筋力が低下することでもだ液の分泌量は減ってしまいます。その他に、糖尿病や更年期障害などでもドライマウスが生じることもあります。

